ブラジル・メキシコ・アルゼンチン 経済・金融概況（2024年7月）

2024年7月30日
三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

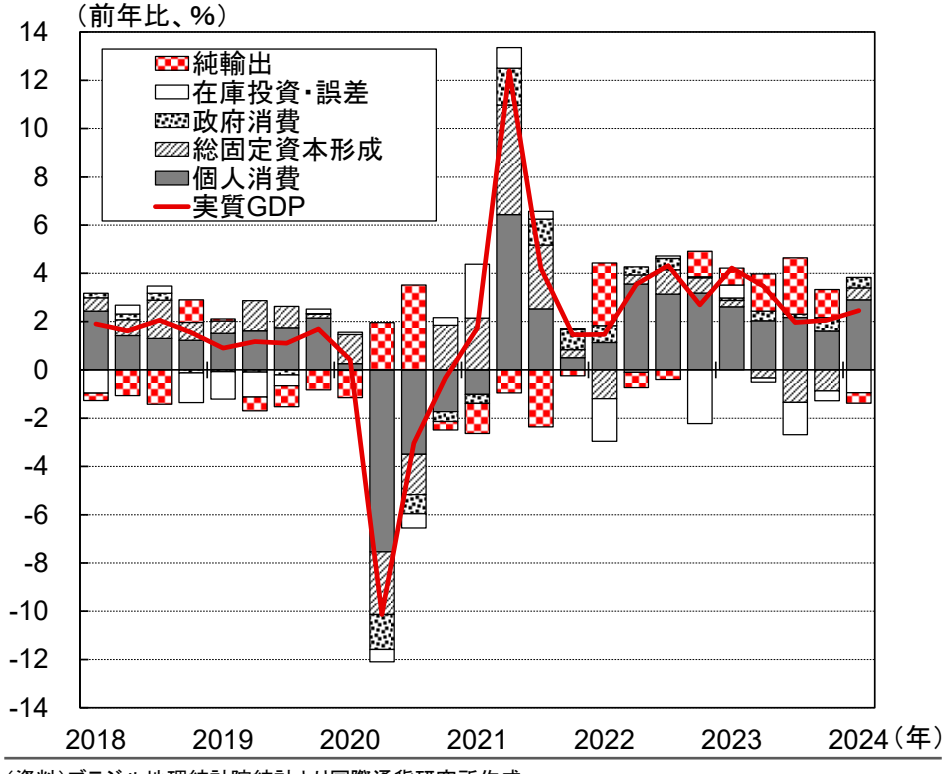
三菱UFJ銀行

MUFG

1. ブラジル （1）景気概況

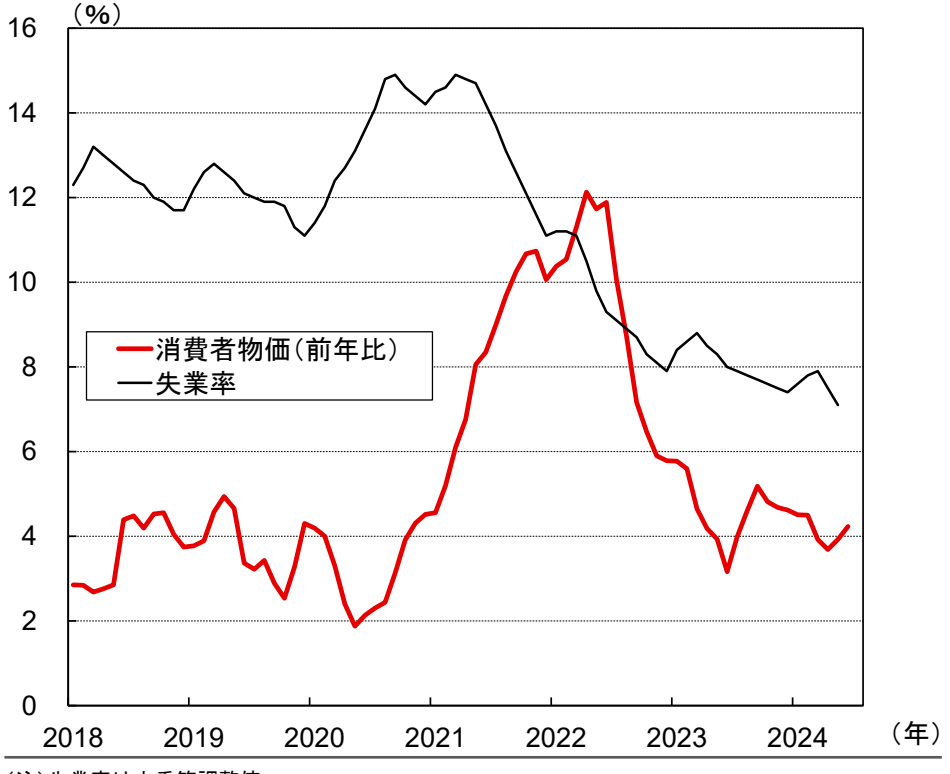
- 1-3月期の実質GDP成長率は前年比＋2.5%と前期（同＋2.1%）から小幅に加速。需要項目別の寄与度では、インフレ率の低下や良好な雇用・所得環境を背景に個人消費（同＋2.9%ポイント）が前期からプラス幅を拡大させたほか、総固定資本形成（同＋0.5%ポイント）はプラスに転じた。一方、在庫投資・誤差（同▲0.9%ポイント）は前期からマイナス幅が拡大し、機械および中間財の輸入の増加を背景に純輸出（同▲0.4%ポイント）はマイナスに転じた 。
- 5月の失業率は7.1%と緩やかな低下傾向が継続。
- 消費者物価上昇率は、5月に前年比＋3.9%、6月に同＋4.2%と、4%前後で推移。

実質GDP成長率の推移



（資料）ブラジル地理統計院統計より国際通貨研究所作成

消費者物価上昇率と失業率の推移

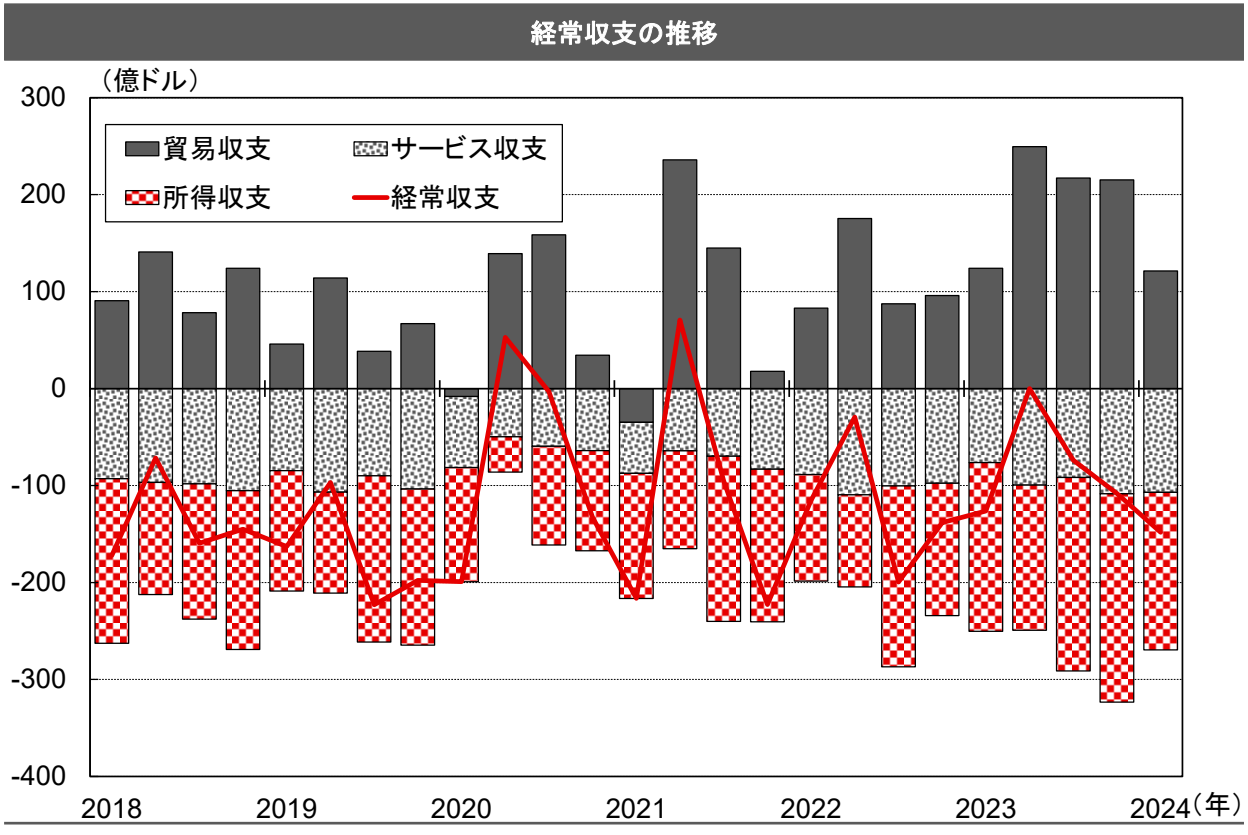


（注）失業率は未季節調整値。
（資料）ブラジル地理統計院統計より国際通貨研究所作成

MUFG

1. ブラジル （2）経常収支

- 1-3月期の経常収支は▲148億ドルと、前年同期の▲126億ドルから赤字幅が拡大。
- 内訳をみると、所得収支は▲163億ドル（前年比＋11億ドル）と赤字幅が小幅に縮小し、貿易収支は121億ドル（同▲3億ドル）とほぼ横這いだったものの、サービス収支は▲107億ドル（同▲31億ドル）と赤字幅が拡大した。
- ブラジル中央銀行は、これまで貿易収支に算入していた暗号資産の取引額が、7月以降資本移転等収支に算入されることで、経常収支赤字が大幅に縮小すると発表。変更は過去に遡って実施されるため、1-5月の経常収支は▲211億ドルから▲147億ドルに赤字幅が縮小すると説明している。

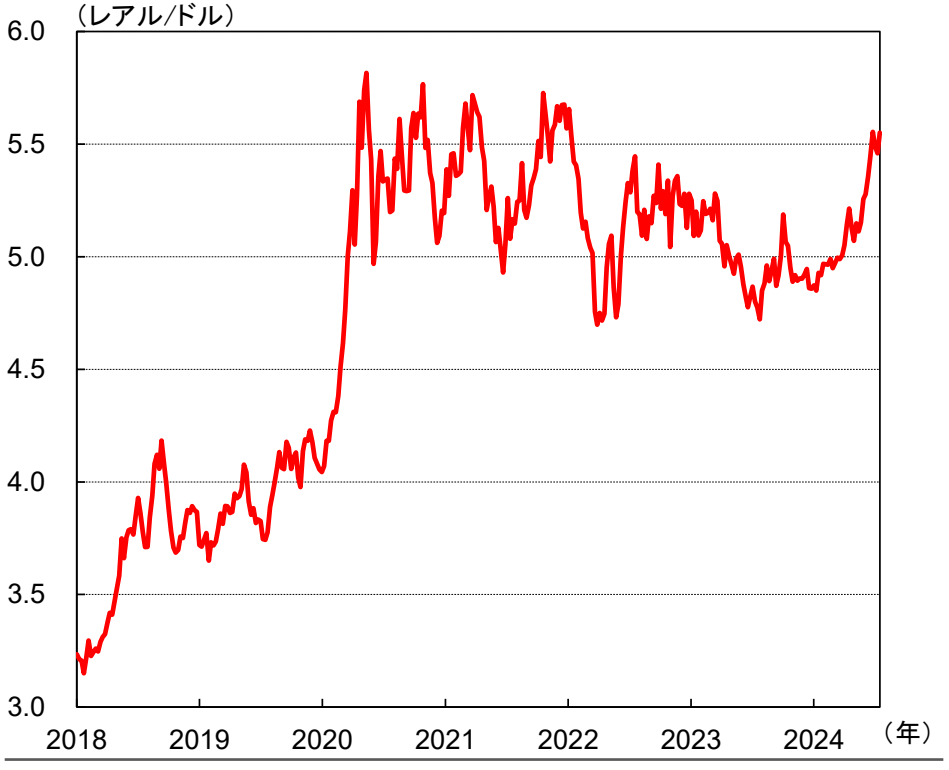


（資料）ブラジル中央銀行統計より国際通貨研究所作成

1. ブラジル （3）金融市場

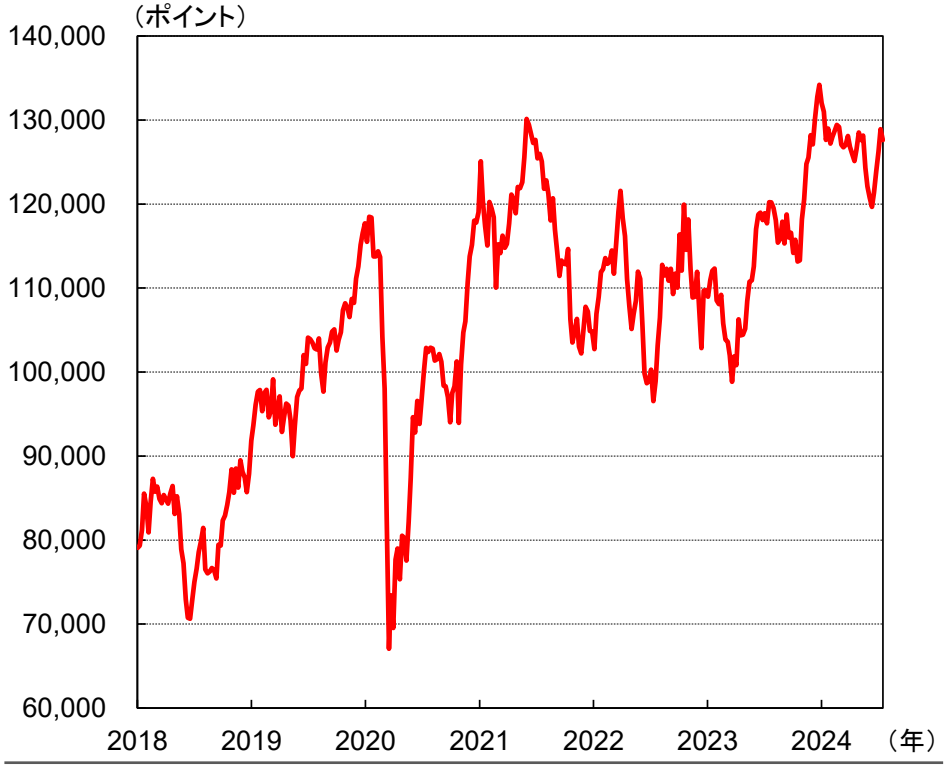
- ブラジルレアルの対ドル相場は、レアル安の動きが加速し、足元1ドル＝5.5レアル近辺まで下落。財政黒字化時期の目途が2025年から2026年に先送りされるなど、ルラ政権下での財政政策の不透明感が高まったことに加え、ドル高の進行や6月のメキシコの選挙結果を受けて新興国通貨に下落圧力がかかったことが要因。
- 株価（ボベスパ指数）は、足元で120,000ポイント台で推移。

ブラジルレアル（対米ドル）の推移



（資料）Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価（ボベスパ指数）の推移



（資料）Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

1. ブラジル （4）経済・金融概況

ブラジルの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2021	2022	2023	23/4-6	7-9	10-12	24/1-3	24/3	4	5	6
実質GDP成長率（前年比、%）	(4.8)	(3.0)	(2.9)	(3.5)	(2.0)	(2.1)	(2.5)				
経済活動指数〇	139.17	142.86	146.67	147.20	146.54	146.78	148.87	148.85	149.23	149.60	―
鉱工業生産（前期比、%）〇	(4.2)	(▲0.7)	(0.3)	(0.5)	(0.1)	(1.1)	(0.2)	(1.1)	(▲0.8)	(▲0.9)	―
設備稼働率〇	(80.9)	(80.4)	(78.7)	(78.7)	(78.5)	(78.6)	(78.7)	(78.6)	(79.1)	(78.7)	―
小売売上高（前年比、%）	(2.2)	(1.1)	(1.7)	(0.3)	(2.7)	(1.4)	(5.9)	(5.7)	(2.1)	(8.1)	―
自動車国内販売台数（千台）	2,120	2,104	2,309	527	631	679	515	188	221	194	214
失業率（%）	(13.5)	(9.5)	(8.0)	(8.3)	(7.8)	(7.5)	(7.8)	(7.9)	(7.5)	(7.1)	―
消費者物価上昇率（IPCA）（前年比、%）	(8.3)	(9.3)	(4.6)	(3.8)	(4.6)	(4.7)	(4.3)	(3.9)	(3.7)	(3.9)	(4.2)
卸売物価上昇率（前年比、%）	(37.0)	(11.2)	(▲6.1)	(▲7.5)	(▲10.7)	(▲6.4)	(▲6.4)	(▲7.0)	(▲5.4)	(▲1.7)	(1.9)
輸出（FOB）（億ドル）	2,808	3,341	3,397	909	891	870	790	282	310	307	―
（前年比、%）	(34.2)	(19.0)	(1.7)	(▲1.5)	(▲2.8)	(4.9)	(2.1)	(▲14.8)	(10.5)	(▲6.9)	―
輸入（FOB）（億ドル）	2,194	2,726	2,408	660	673	655	669	234	246	243	―
（前年比、%）	(38.2)	(24.2)	(▲11.7)	(▲11.8)	(▲18.7)	(▲10.7)	(2.9)	(▲2.0)	(18.7)	(3.1)	―
貿易収支（億ドル）	614	615	989	249	217	215	121	49	64	64	―
経常収支（億ドル）	▲464	▲483	▲308	0	▲74	▲108	▲148	▲48	▲29	▲34	―
直接投資ネット流入（億ドル）	464	746	642	94	195	143	233	96	39	30	―
外貨準備高（億ドル）◎	3,094	2,719	3,170	2,915	3,092	3,170	3,172	3,172	3,129	3,120	3,067
ベースマネー（億レアル）◎	4,092	4,197	4,227	4,031	4,045	4,227	4,178	4,178	4,063	4,366	4,369
政策金利（Seric Target rate）◎	(9.25)	(13.75)	(11.75)	(13.75)	(12.75)	(11.75)	(10.75)	(10.75)	(10.75)	(10.50)	(10.50)
対米ドル為替相場◎	5.580	5.217	4.841	4.819	5.007	4.841	4.996	4.996	5.172	5.241	5.559
株価指数（ボベスパ指数）◎	104,822	109,735	134,185	118,087	116,565	134,185	128,106	128,106	125,924	122,098	123,907

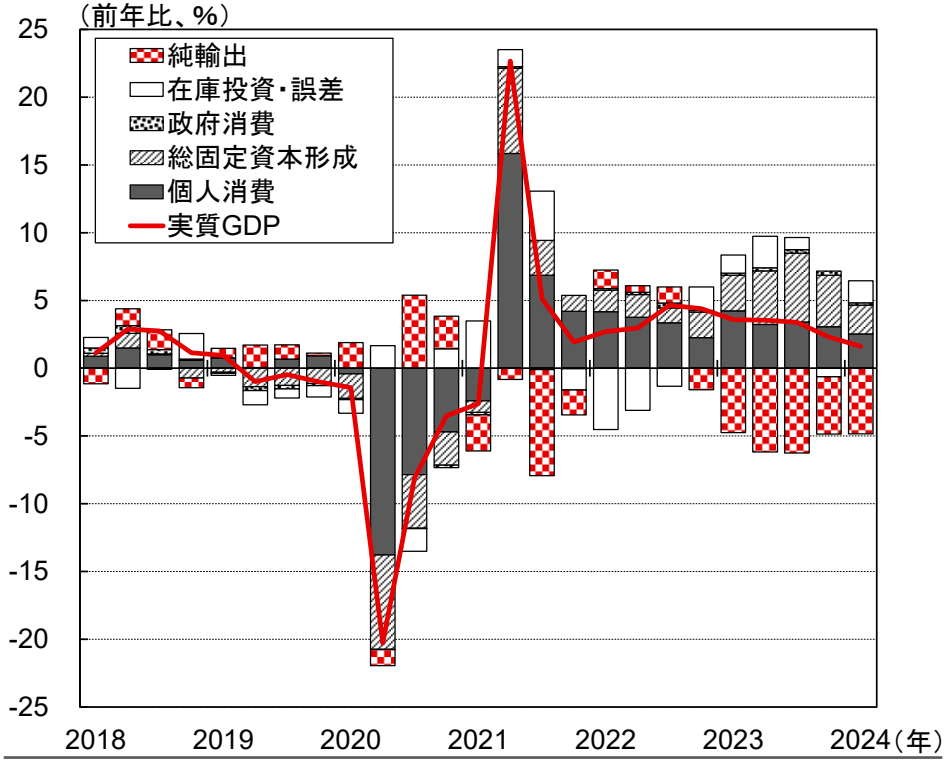
（注）◎印：期末値、〇印：季節調整値
（資料）ブラジル中銀、ブラジル地理統計院（IBGE）、世界銀行、サンパウロ証券取引所より国際通貨研究所作成

MUFG

2. メキシコ （1）景気概況

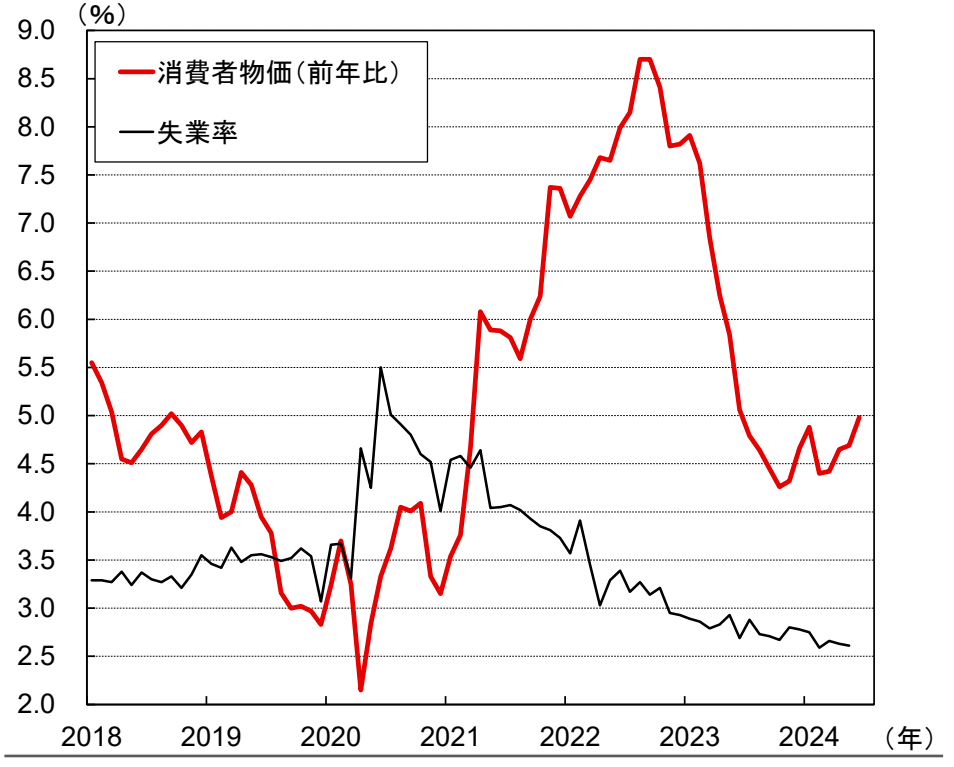
- 1-3月期の実質GDP成長率は前年比＋1.6%と前期（同＋2.3%）から減速。需要項目別の寄与度では、在庫投資・誤差（同＋1.6%ポイント）はプラスに転じた一方、個人消費（同＋2.5%ポイント）と総固定資本形成（同＋2.1%ポイント）が前期からプラス幅を縮小させたほか、輸出減少を背景に純輸出が6期連続でマイナスになった。
- 5月の失業率は2.6%と緩やかな低下が継続。
- 6月の消費者物価上昇率は前年比＋5.0%と、農産物価格の上昇等を背景に小幅に加速。メキシコ中銀の定めるインフレ目標（前年比＋3%±1%）の上限を超過。

実質GDP成長率の推移



（資料）国立統計地理情報院統計より国際通貨研究所作成

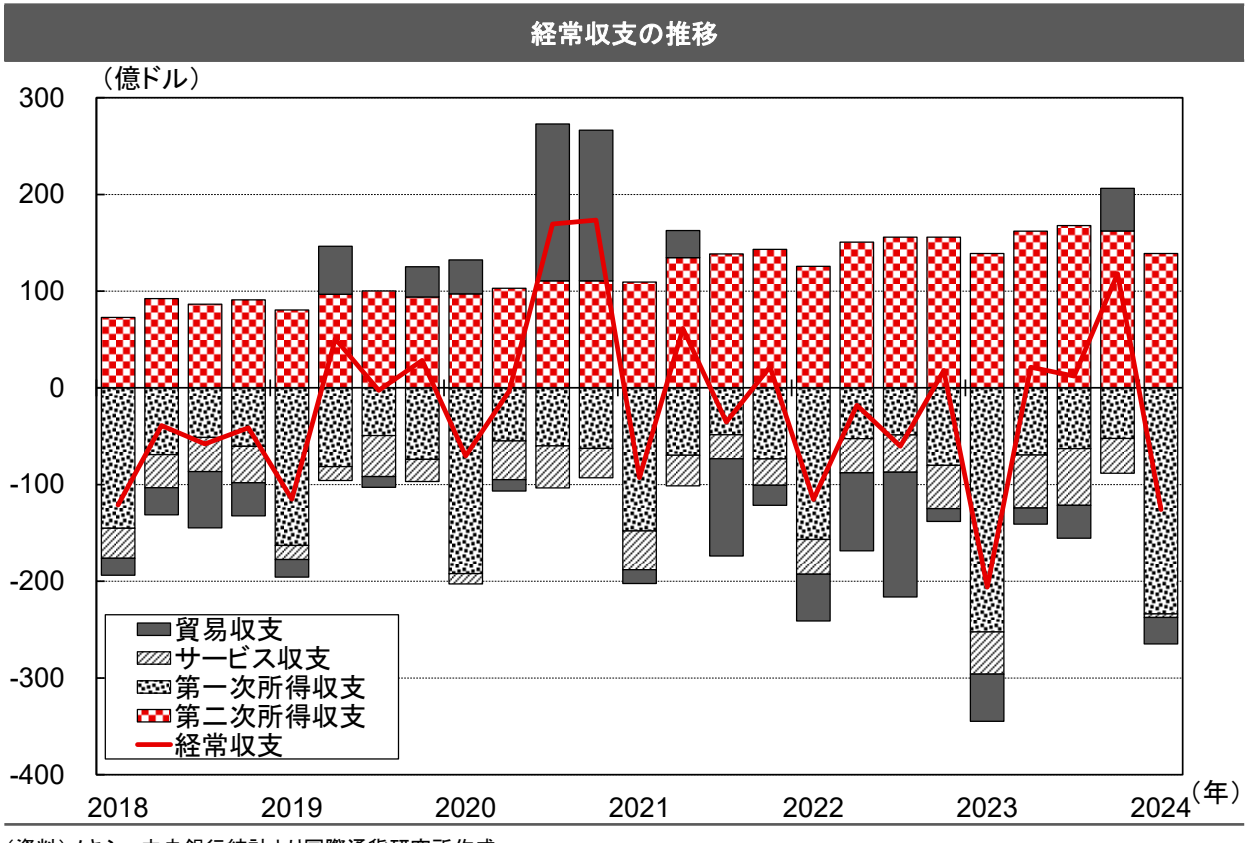
消費者物価上昇率と失業率の推移



（資料）国立統計地理情報院統計より国際通貨研究所作成

2. メキシコ （2）経常収支

- 1-3月期の経常収支は▲126億ドルと、前年同期の▲206億ドルから赤字幅が縮小。
- 内訳をみると、貿易収支は▲27億ドル（前年比＋21億ドル）、サービス収支は▲4億ドル（同＋40億ドル）、第一次所得収支は▲234億ドル（同＋18億ドル）と赤字幅を縮小。なお、メキシコの第一次所得収支の赤字幅は、メキシコ進出企業の本社に対する利益・配当等の送金のため1-3月期に大きく膨らむ季節性がある。

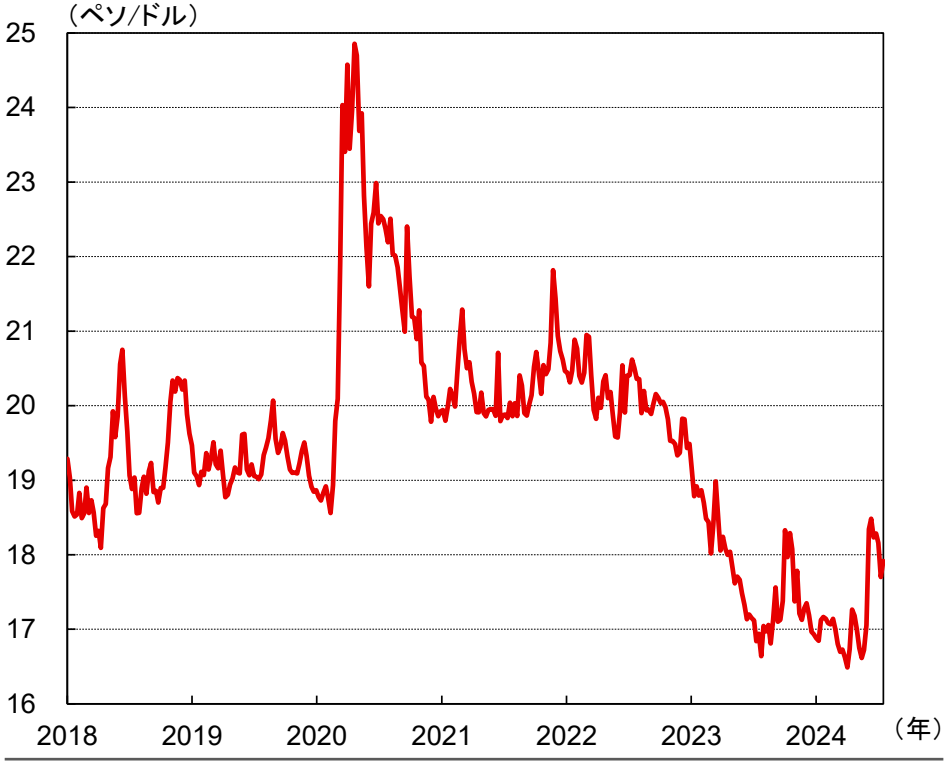


（資料）メキシコ中央銀行統計より国際通貨研究所作成

2. メキシコ （3）金融市場

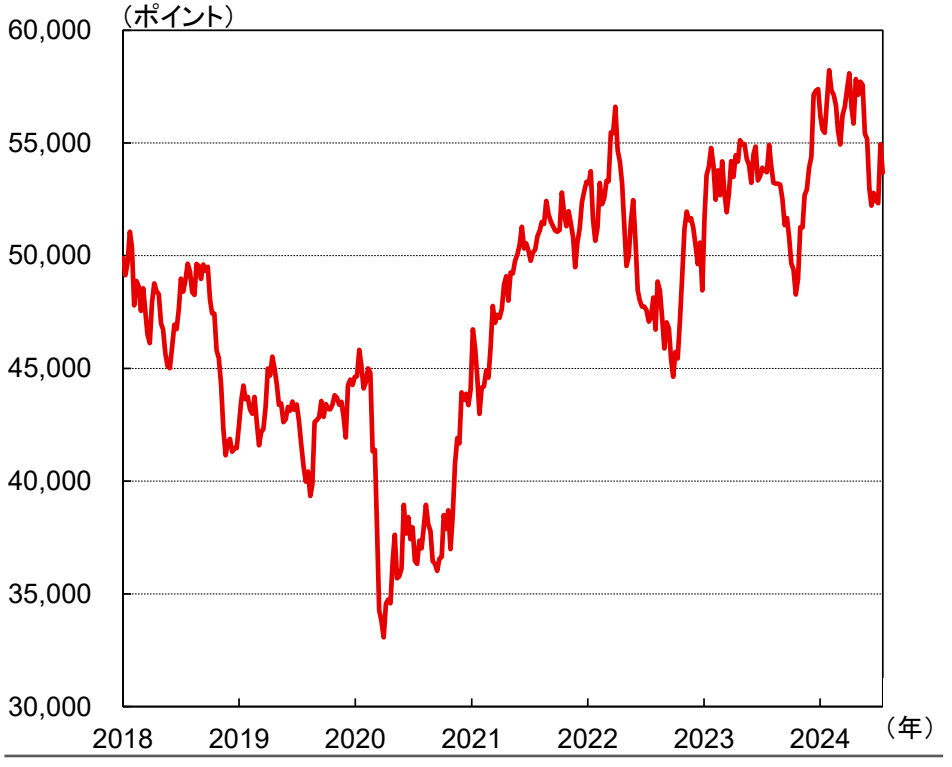
- メキシコペソの対ドル相場は、6月の総選挙・大統領選挙以降急落し、足元1ドル＝18ペソ近辺で推移。
- メキシコ中銀は3月の金融政策決定会合において0.25%ポイントの利下げを決定して以降、政策金利を11.0%に据え置き。
- 左派与党の選挙圧勝を受け、新政権が反ビジネス色を強く打ち出すことへの警戒感が金融市場で高まり、株価（ボルサ指数）は一時52,000ポイント台に急落。足元では53,000ポイント台で推移。

メキシコペソ（対米ドル）の推移



（資料）Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価（ボルサ指数）の推移



（資料）Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

2. メキシコ （4）経済・金融概況

メキシコの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2021	2022	2023	23/4-6	7-9	10-12	24/1-3	24/3	4	5	6
実質GDP成長率（前年比、%）	(6.1)	(3.7)	(3.2)	(3.5)	(3.4)	(2.3)	(1.6)				
鉱工業生産（前期比、%）〇	(6.5)	(4.7)	(3.5)	(1.7)	(1.0)	(▲0.4)	(▲0.6)	(0.6)	(▲0.4)	(0.7)	―
自動車生産台数（千台）	3,028	3,308	3,779	975	959	923	928	302	359	366	344
自動車販売台数（千台）	924	897	1,361	318	343	386	350	124	112	120	123
原油産出量（千バーレル／日）*	1,756	1,784	1,875	1,902	1,871	1,856	1,820	1,811	1,784	1,785	―
（前年比、%）	(3.0)	(1.6)	(5.1)	(7.1)	(4.9)	(3.0)	(▲2.8)	(▲3.6)	(▲6.3)	(▲6.3)	―
原油輸出価格（米ドル／バーレル）	65.6	88.8	70.9	65.9	76.9	74.8	72.7	73.8	76.6	74.3	―
失業率（%）〇	(4.1)	(3.3)	(2.8)	(2.8)	(2.8)	(2.8)	(2.7)	(2.7)	(2.6)	(2.6)	―
消費者物価上昇率（前年比、%）	(5.7)	(7.9)	(5.5)	(5.7)	(4.6)	(4.4)	(4.6)	(4.4)	(4.7)	(4.7)	(5.0)
輸出（FOB）（億ドル）	4,949	5,777	5,930	1,507	1,499	1,513	1,435	506	513	557	―
（前年比、%）	(18.6)	(16.7)	(2.7)	(1.3)	(0.6)	(2.4)	(1.7)	(▲5.4)	(11.4)	(5.4)	―
輸入（CIF）（億ドル）	5,057	6,046	5,985	1,524	1,533	1,469	1,462	487	551	537	―
（前年比、%）	(32.0)	(19.6)	(▲1.0)	(▲2.8)	(▲5.3)	(▲1.5)	(0.2)	(▲7.1)	(15.4)	(1.4)	―
経常収支（億ドル）	▲45	▲176	▲54	21.3	12.3	118.2	▲ 125.8				
資本収支（億ドル）	▲0	▲1	▲0	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.1	▲ 0.1				
外貨準備高（億ドル）◎	2,024	1,991	2,128	2,032	2,038	2,128	2,172	2,172	2,172	2,187	2,200
ベースマネー（億ペソ）◎	24,408	27,000	29,605	26,849	27,028	29,605	30,433	30,433	29,804	29,898	29,952
政策金利◎	(5.50)	(10.50)	(11.25)	(11.25)	(11.25)	(11.25)	(11.00)	(11.00)	(11.00)	(11.00)	(11.00)
対米ドル為替相場◎	20.47	19.47	16.92	17.14	17.41	16.92	16.53	16.53	17.10	17.02	18.25
株価指数（ボルサ指数）◎	53,272	48,464	57,386	53,526	50,875	57,386	57,369	57,369	56,728	55,179	52,440

（注）*印：期中平均値、◎印：期末値、〇印：季節調整値

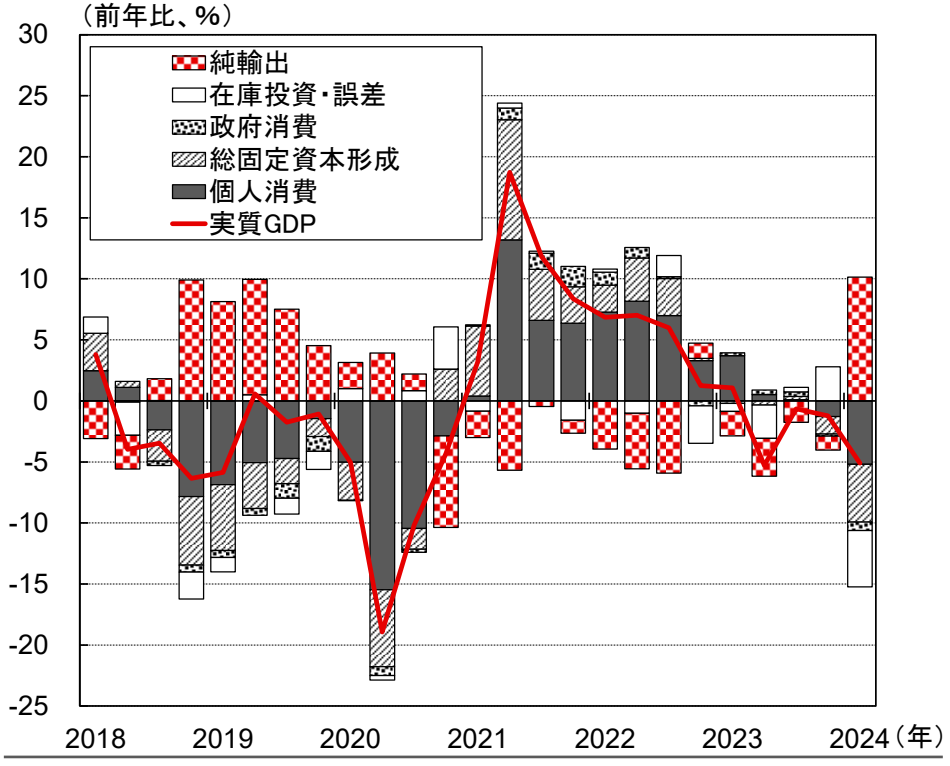
（資料）メキシコ中銀、国立統計地理情報院（INEGI）、PEMEXより国際通貨研究所作成

MUFG

3. アルゼンチン （1）景気概況

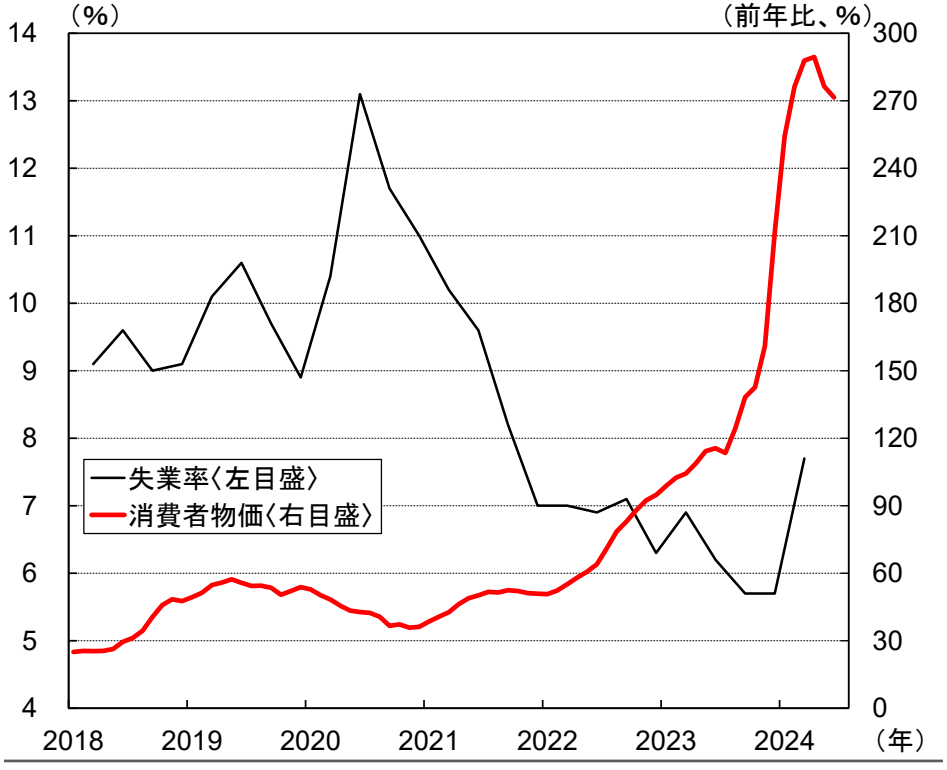
- 1-3月期の実質GDP成長率は、前年比▲5.1%と4四半期連続のマイナス成長。需要項目別の寄与度では、個人消費（同▲5.2%ポイント）、総固定資本形成（同▲4.7%ポイント）、在庫投資・誤差（同▲4.6%ポイント）のマイナス幅が拡大した。一方で、2023年の歴史的干ばつからの回復もあり、穀物などの一次産品の輸出が好調であったこと、通貨切り下げや緊縮財政による内需の落ち込みにより輸入が減少したことを背景に、純輸出（同＋10.1%ポイント）はプラスに転じた。
- 1-3月期の失業率は7.7%と大幅に悪化した。
- 6月の消費者物価上昇率は、ペソの下落に伴い前年比＋271.5%と7ヵ月連続で200%を超えたものの、2ヵ月連続で低下。

実質GDP成長率の推移



（資料）アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

消費者物価上昇率と失業率の推移

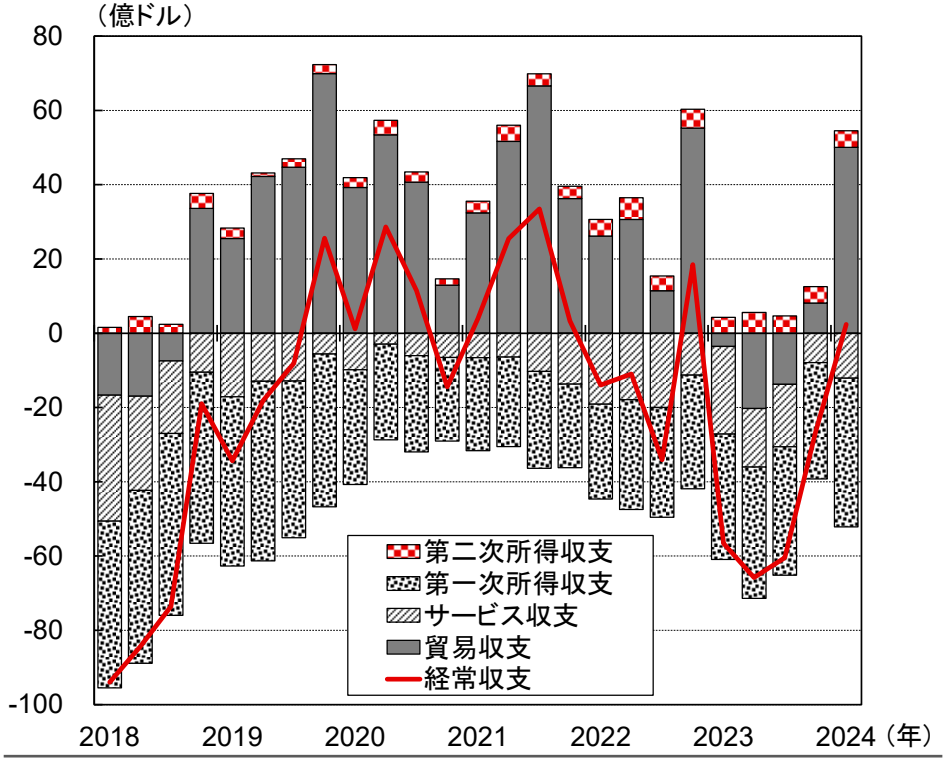


（資料）アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン （2）経常収支・外貨準備高

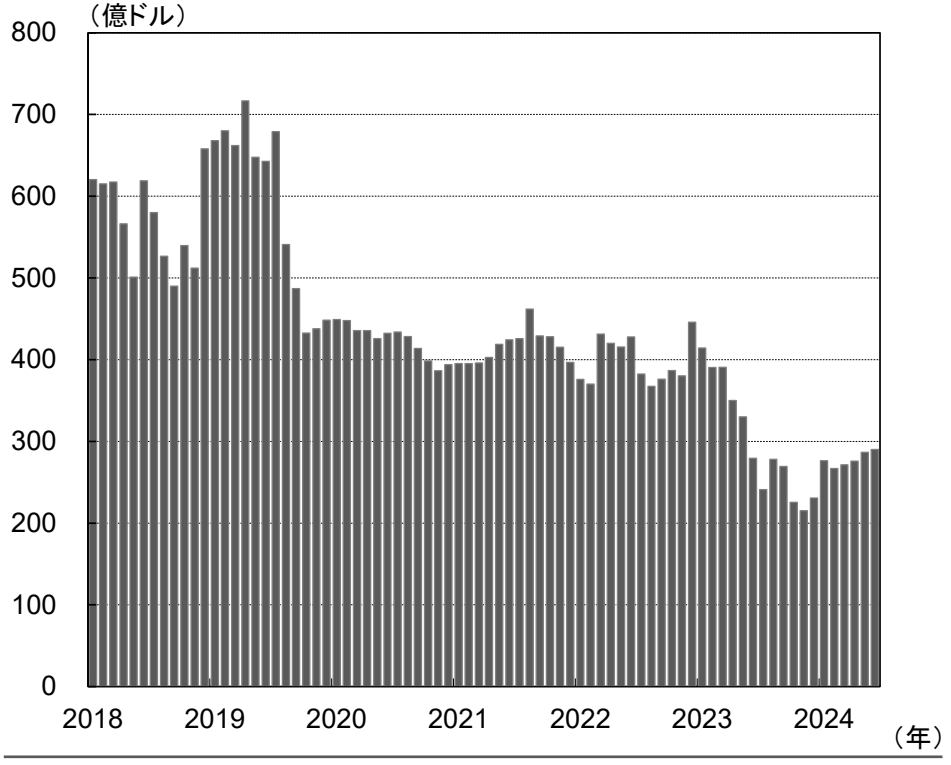
- 1-3月期の経常収支は2億ドルと、前年同期の▲57億ドルから黒字に転じた。貿易収支が前年同期の▲4億ドルの赤字から50億ドルの黒字となったことが主因。
- 6月末時点の外貨準備高は290億ドルと低水準ながら幾分回復傾向。IMFは6月に約8億ドルの支援を実施。

経常収支の推移



（資料）アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

外貨準備高の推移

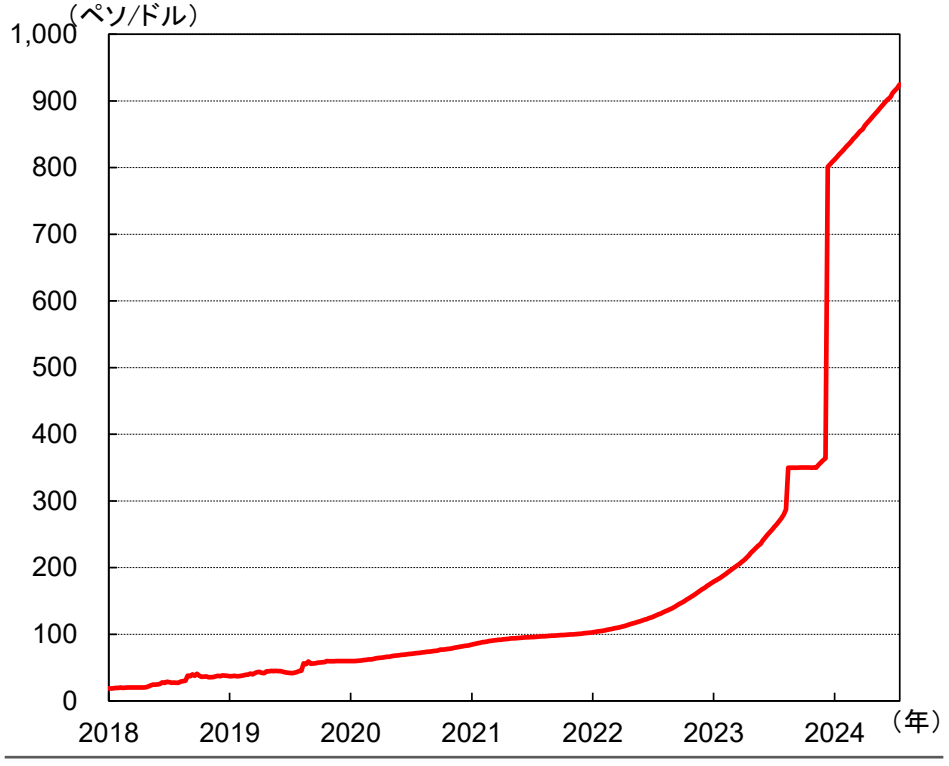


（資料）アルゼンチン中央銀行統計より国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン （3）金融市場

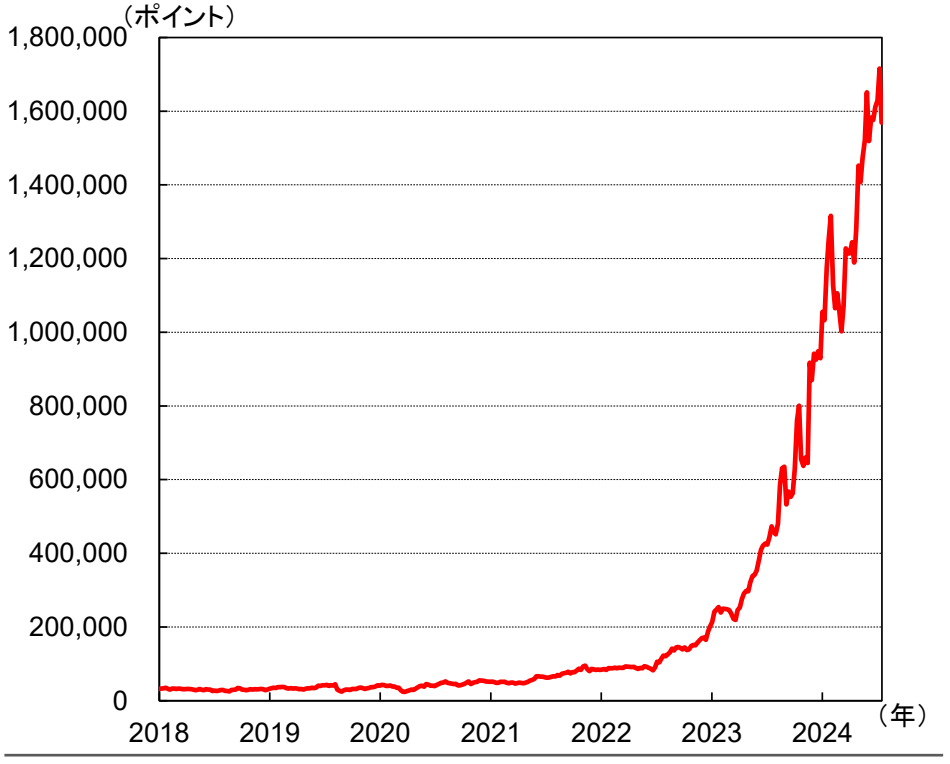
- アルゼンチンペソの対ドル相場（公定レート）は、足元1ドル＝900ペソ台まで下落。
- ミレイ政権下で緊縮財政の取り組みが進み、前月比の物価上昇率が4ヵ月連続で鈍化したことを受け、中央銀行は政策金利を4月11日に70%、4月25日に60%、5月2日に50%、5月14日に40%と段階的に引き下げた。
- アルゼンチン上院がミレイ大統領の経済改革法案を可決したことで安心感が広がり、株価（メルバル指数）は、1,600,000ポイント近辺まで上昇。

アルゼンチンペソ（対米ドル）の推移



（資料）Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価（メルバル指数）の推移



（資料）Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン （4）経済・金融概況

アルゼンチンの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2021	2022	2023	23/4-6	7-9	10-12	24/1-3	24/3	4	5	6
実質GDP成長率（前年比、%）	(10.4)	(5.3)	(▲1.6)	(▲5.3)	(▲0.7)	(▲1.2)	(▲5.1)				
鉱工業活動指数（前年比、%）	(17.2)	(4.2)	(▲1.7)	(0.1)	(▲3.4)	(▲6.1)	(▲14.4)	(▲21.3)	(▲16.6)	(▲14.8)	―
建設活動指数（前年比、%）	(53.4)	(3.5)	(▲3.1)	(▲3.2)	(▲4.5)	(▲3.8)	(▲29.5)	(▲42.2)	(▲37.2)	―	―
自動車生産台数（千台）	435	537	611	161	169	145	103	43	43	38	32
自動車販売台数（千台）	334	376	407	117	105	96	79	30	22	28	32
失業率（%）	(8.8)	(6.8)	(6.1)	(6.2)	(5.7)	(5.7)	(7.7)				
消費者信頼感指数	38.0	36.9	41.1	39.1	43.7	44.1	36.1	36.7	37.2	38.3	37.2
消費者物価上昇率（前年比、%）	(48.0)	(72.4)	(134.5)	(113.0)	(125.9)	(172.8)	(273.5)	(287.9)	(289.4)	(276.4)	(271.5)
輸　出（FOB）（億ドル）	779	884	668	176	177	156	174	65	65	77	66
（前年比、%）	(42.0)	(13.5)	(▲24.5)	(▲29.8)	(▲22.5)	(▲26.5)	(9.5)	(13.0)	(10.7)	(22.2)	(21.7)
輸　入（CIF）（億ドル）	632	815	737	196	191	148	124	43	47	50	47
（前年比、%）	(49.2)	(29.0)	(▲9.6)	(▲10.7)	(▲12.1)	(▲5.8)	(▲23.7)	(▲36.7)	(▲22.7)	(▲32.1)	(▲35.4)
貿易収支（億ドル）	148	69	▲69	▲20	▲14	8	50	21	18	26	19
外貨準備高（億ドル）◎	397	446	231	279	269	231	271	271	276	287	290
ベースマネー（億ペソ）◎	36,540	52,038	96,080	58,857	68,282	96,080	124,637	124,637	149,691	171,517	201,825
対民間部門貸出量（億ペソ）◎	53,574	90,862	237,481	135,944	172,774	237,481	314,366	314,366	344,832	386,844	―
（前年比、%）	(42.4)	(69.6)	(161.4)	(97.2)	(122.2)	(161.4)	(192.6)	(192.6)	(191.1)	(206.0)	―
経常収支（億ドル）	66	▲ 41	▲ 210	▲ 66	▲ 60	▲ 27	2				
対米ドル為替相場 ◎	102.75	177.13	808.48	256.68	350.01	808.48	857.42	857.42	876.75	895.25	911.75
株価指数（メルバル指数）◎	83,500	202,085	929,704	426,281	562,569	929,704	1,213,485	1,213,485	1,323,586	1,651,417	1,611,295

（注）*印：期中平均値、◎印：期末値
（資料）アルゼンチン中銀、国家統計センサス局、経済省、アルゼンチン大学、OECD、アルゼンチン経済省より国際通貨研究所作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行　経済調査室
〒100-8388　東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：　国際通貨研究所　　森川 央　　morikawa@iima.or.jp
　　土橋　里佳 rika_dobashi@iima.or.jp